

1月22日(木)音読集会・3年環境学習

【世代が異なると育ってきた環境も異なる】

昭和生まれのわたしは、子どもの数も多かったためか、クラスの数も多く、同級生や兄弟との比較という叱咤激励も多く、大きな声で指示をだす先生がほとんどで、今と比較すると少々雑であったように感じるのはわたしだけでしょうか。丁寧に話を聞き、対話してくれたり、褒めてくれたりと、ここ数年で学校も大変変化しているように思います。またAIの時代こそ、大人が責任をもつことや人とのかかわり方を見つめたいものです。時代の流れにあった環境づくりの大切さを感じる今日この頃です。





6年「天地の文」

5年
「論語」「春暁」

全校生に、学年の学
びを伝える時間のた
くさを感じました。



ゴマダラチョウ



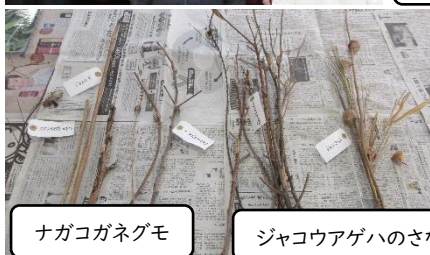
チョウセンカマキリ



ハマビロカマキリ

オオムラサキ

コカマキリ



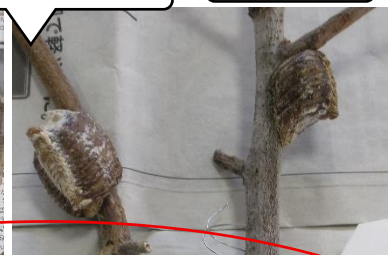
ナガコガネグモ



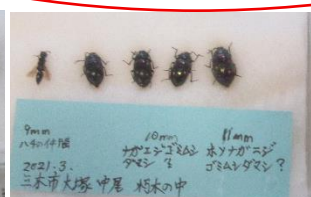
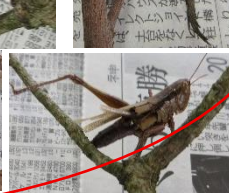
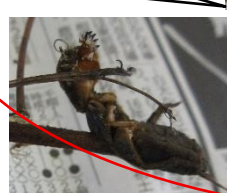
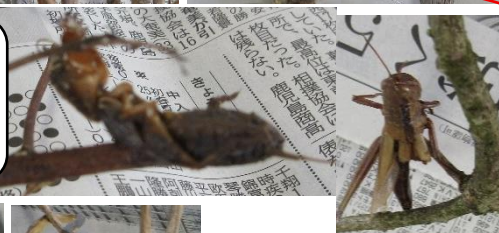
オオカマキリ



ジャコウアゲハのさなぎ

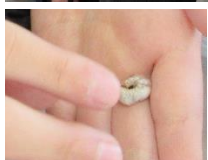


モズは、帰るや、バツタ類
などを尖った枝に突き刺
して乾燥させて食べ、体
力をつけて子孫を残す

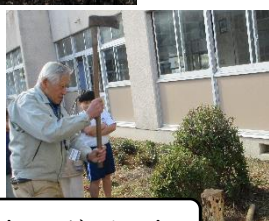




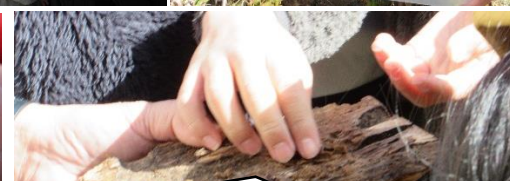
冬越しをする生き物を学びました。南の国から来る燕、北の国から来る鴨や白鳥は、餌が確保しやすい日本へ来ます。



カブトムシは、お尻が汚く、横に線があり、クワガタは、お尻がきれいで、縦に線があります。



割った木から出てきたクワガタ幼虫は、確かに、お尻がきれいで、縦に割れていました。



子どもたちは、小さな穴をよく見て、冬越しのクワガタを小さな手で上手に外へ出すことに夢中

準備していただいた木からたくさん出てきました。クワガタの幼虫だけでなく、クワガタも冬越ししていました。

